

# AMDA ジャーナル ダイジェスト

発行：2011年6月 No.36 定価 150円  
 発行元：〒700-0013 岡山市北区伊福町3-31-3  
 特定非営利活動法人 アムダ：AMDA  
 TEL 086-252-7700 FAX 086-252-7717  
 E-mail:member@amda.or.jp  
 編集：AMDA ボランティアセンター  
 ホームページ：http://www.amda.or.jp

## 東日本大震災被災者に対する緊急医療支援活動

### ■活動開始から現在までの大まかな流れ

- 3/11 東日本大震災発生 マグニチュード9.0の地震と津波による甚大な被害が報道され、それを受けて直ちに医療チームの派遣を決定。
- 3/12 午前 AMDA 第一次医療チーム出発、宮城県仙台市に入り、活動を開始。
- 3/15 仙台に医療チームを残し、二手に分かれ岩手県釜石市、岩手県大槌町へ移動、新たな拠点として活動を開始。
- 3/19 宮城県南三陸町からの要請を受け、医療チームを派遣、医療活動が開始された。
- 3/21 宮城県仙台市の活動を現地に引継ぎ終了。
- 3/31 岩手県釜石市の拠点を岩手県の医師会らに引継ぎ終了。
- 4/20 宮城県南三陸町の拠点を地元医師らに引継ぎ終了。同日、岩手県大槌町の医療業務を地元医師らに引継ぎ終了。鍼灸診療や健康サポート支援は継続。現在に至る。

### ■派遣者ののべ人数と内訳（4月末時点）

AMDA 医療チーム派遣人数 149名  
 医師：51名 看護師：33名 助産師：4名  
 薬剤師：3名 調整員：50名 心理士：2名  
 准看護師：2名 介護スタッフ：2名 鍼灸師：2名

### ■AMDA 物資便について

被災地に派遣した医療チームから、物資ニーズの情報を受け、AMDA 本部で物資を購入したり、寄贈を受けた物品などをトラックをチャーターし現地に届けた。（全7便）

さらに宅配システムが復旧してからは、宅急便でも物資を現地に届けた。（多数便）

#### \*主な物資：

医薬品、カルテ、超音波診断器、血球計数器、心電計、医療機器類、衛生用品各種、医療用寝間着、携帯充電器、生活支援物資、食料品、米、野菜、事務用品、ランドセル 自転車、洗濯機、コンピュータなど



物資を乗せたトラック大槌高校避難所に到着

### ■被災地医療支援活動の様子

避難所に常駐しての医療活動と、小さな避難所や自宅避難をされている方たちの巡回診療実施。地震の被害よりも津波の被害が大きく、外科的な処置が必要な患者よりも、慢性疾患や精神的なストレスなど、内科的、心療内科的処置が必要な患者が多かった。患者の状況に合わせて、精神科の医師や看護師を派遣したり、鍼灸治療なども取り入れた。医療支援以外にも、長期にわたる避難所での生活に必要と感じられたことは積極的に実施していった。清掃などに積極的に参加、児童用プレイルームの設置、栄養プログラム、ビタミンプログラム、ロールケーキの炊き出し、様々なレクリエーションの企画・実行、避難所に間仕切りプログラム、運動器具の導入など医療以外のニーズにも対応した。またランドセルの提供や、高校生への文房具の提供も行った。



避難所での巡回診療



パティシエによるロールケーキづくりと2000人配布

### ■今後の復興支援活動（4頁参照）

- \* AMDA 東日本大震災国際奨学金
- \* AMDA 東日本大震災スポーツ交流プログラム
- \* AMDA 被災地病院支援3カ年計画
- \* AMDA 大槌クラブとAMDA 高校生会大槌・釜石（仮称）の設立
- \* AMDA 鍼灸師・健康支援プログラム

## 次へのステップ



元持 幸子 (大槌町出身)

AMDA 東日本大震災緊急支援活動  
調整員 理学療法士

頑張ろう！踏ん張ろう！東北・日本のフレーズが日本各地から聞かれるように、復興へ向けた動きが広がっています。この動きは次へのステップ、これからに向けたチャレンジへ踏み出すための背中を押さすフレーズであるように思います。震災からの数ヶ月間の経過した今、私の生まれ故郷の将来や日本の未来に、目を向けられるようになりました。

東北関東大震災の影響は、直接的に自然災害を受けた地域のみでなく、全国的被害として、電力・エネルギー問題や経済の低迷などが生じています。しかし、そのような状況においても被災地を応援し続けてくれる皆さんが、大勢いることを実感しています。AMDAにおける支援活動は、すばやく現場ニーズに対応した医療支援、物資の供給に始まり、日本はもとより世界各地から様々な支援が寄せられました。緊急医療支援においては助かる命・助かった命を支え、生活再建へ向けての人々の生きる力のベースを創っていると感じます。今回の震災におけるAMDAの人々を支える活動と私の気付きを「医・職・柔」(い・しょく・じゅう)としてまとめてみました。

**「医」:** 震災直後、医療機関がゼロとなった地域に、緊急医療が入り命とその安全をサポートとなりました。瓦礫をこえて、避難される人々のもとへ医療を届ける訪問活動。避難所診療所における、多くの避難者の身心的ケアを行うなどの継続的な支援が4月20日まで行われました。その後、仮設診療所の開設と保険診療が始まり徐々に地域医療へと移り変わってきています。

**「職」:** 震災当初から地域住民と共にAMDAは動いていました。地域情報の収集、物資運搬や訪問活動における地理的、人的関係のつなぎ合わせをしてくれた地元ドライバー雇用などがあります。震災で失った前職の経験等を活かし、支援活動への参加と共働の機会を通して、自分の可能性や自分への自信に繋がっている。という感想を聞くことが出来ました。人々の生活基盤整備や地域経済の復興は、今後の長期的な課題であります。共に支援活動に関われたおかげで、地域の繋がりや助け合いの相互扶助の豊かさ、人々の芯の強さや底力を確信することができました。

**「柔」:** 柔軟に様々な支援活動を人や町の状況に合わせて行っていました。以前の穏やかな三陸の町は、現実問題として人口の過疎化、超高齢化、医療機関・医療従事者の不足などの問題も抱えているのです。震災後の町の変化としては、震災からの安全の確保の段階から生活の安心構築へと変わりつつあります。AMDAの支援活動は、医療、健康、栄養、子どもや高齢者、物資、教育の支援など活動内容は幅広いものでした。今後、災害前の現状問題も含めた新たな価値を見出しながらの地域づくりが、求められているのではないのでしょうか。

私自身、時間の経過とともに、震災の状況を振り返ることはできるようになってきました。これからは、地域の特性を活かせるもの、次世代へ手渡していくもの、次へ繋ぐ新たな価値に目を向けていこうと思います。

## 被災地の人々の声

紹介：震災当初から、医師会の災害対策本部・本部長として、医療支援班の取りまとめを行う。刻一日と変化をしている状況を冷静に判断し、釜石大槌地区の緊急医療から移行まで調整を現在も行っている。

■釜石医師会災害対策本部 本部長

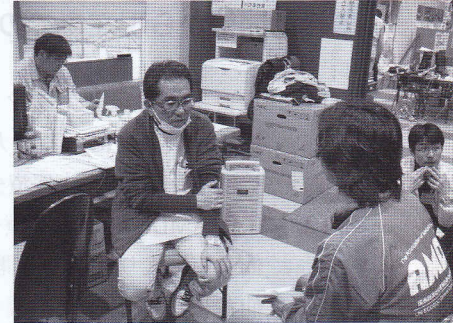
寺田 尚弘さん 医師 釜石市在住

御礼

中央が寺田医師

発災より2カ月半が過ぎ、被災地の医療はようやく落ち着きを取り戻し通常医療の復興の足音が聞こえ始めてまいりました。この2カ月半何百人という医療スタッフのご尽力のお陰で被災地釜石・大槌の医療を守ることができました。心よりお礼申し上げます。

災害の規模はどの点からみても想定外であり、私のような一開業医が医療支援班をまとめる役を務めなくてはならないこともまた想定外のものでした。震災前に学習しておいたものなど何もなく、またあったとしてもおそらくは役に立たなかったのではないかと思います。日々の先生方の活動報告から現場を推し量り、ニーズを把握し、問題点を整理し、解決策を提示する仕事。どんなときにも常に支援班の先生方に助けていただきましたが、とりわけAMDAの先生方には現場での医療班の調整業務、臨時の往診活動など本当にきめの細かい役割を引き受けていただき、マンパワーのない対策本部を支えていただきました。感謝してもしきれません。本当にありがとうございました。この場をお借りいたしまして心より御礼申し上げます。今後の皆様方の活動が今回のように地域に実り多きものとなりますように祈念いたしております。



紹介：災害当時は病院勤務中であつた。入院患者すべてをこの震災から非難させ引き続き緊急医療を避難所診療所で行っていた。現在はふれあい広場に設置された仮診療所で看護師長をつづけている。

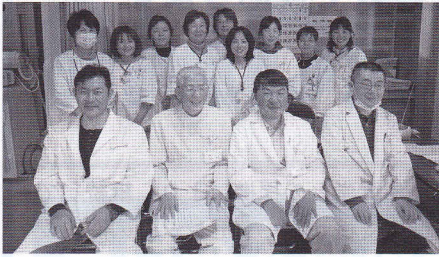
■岩手県立大槌病院 外来師長

沼崎 栄子さん 看護師 女性

今回の震災での経験は、何から話していいかわからないほど沢山あります。振り返ると、震災直後の3日間は寒さと飢えと精神的にもとても辛かったです。しかし、病院には患者さんや多くの職員を守ることが、私の責任としてありました。津波の水が引いた後、瓦礫の中を浸水した大槌病院へ医療を求めてくる患者さんもいました。「助かって生き残った人達に、生きていくために、医療をすぐに始めて行くことが必要。」と、使命感のようなものを感じました。患者の搬送先や安否確保の為に瓦礫の町を歩きまわりました。職員も無我夢中で動いていました。緊急医療のチームが到着し、迅速に患者輸送や対応が行われ、安心感が少しずつ見られてきました。

AMDAのみなさんは、はじめの段階から長期にいてくれたことで医療提供だけでなく、多くの被災した町民や職員

## AMDA が活動した地域の人々の声を紹介します



大槌病院スタッフのみなさん

たちの支えにもなっていました。同じ医療者としての「志」を持って活動されている姿に、現場でともに働く私達も励まされました。

今は、瓦礫に囲まれた仮大槌病院診療所ですが、一日に多いときで100人近い患者さんが、交通の便も悪い中やってきます。自分達の町の中に、そして身近に医療機関があることは、町の人達の望みなのかもかもしれません。これから、どのくらい時間がかかるかわかりませんが、以前のように病院として町の医療を担うように希望を持っています。

紹介：震災初期より、釜石災害対策本部、薬剤師会代表として活動を行う。震災現場の医療ニーズにあわせ薬品の調達手配を迅速に行う。

■中田薬局 代表取締役 薬剤師  
中田 義仁さん 釜石市在住 男性



中央が中田薬剤師

当時の思いとしては、一気に別世界に入って生活しているようでした。その中で懸命に活動している自分がいました。震災翌日から避難所回りを開始しその中で慢性疾患の薬切れの需要が多いことを確認しました。それからはがむしやりに動き回りました。

今の時点で思うことは、この震災の中で自分のやれること（被災した方々の役に立てること）をすぐに見つけることができ行動に移せることができたのは、余計なことを考えずに済むことができ良かったです。助かりました。これからは、避難所から仮設住宅に移ります。その中で薬剤師としてどのように貢献できるか一度頭を整理して良く考え活動していきたいと思っています。

紹介：桜木町自治会の会長。震災当時、避難所指定場所・弓道場へ避難する。そこで、避難所生活運営を桜木町自治会としてサポート活動をまとめていく。弓道場におけるAMDAの活動時には住民の皆さんとの間を上手く取り持っていただけの存在であった。

■桜木町自治会 会長  
中村 盛観さん 大槌在住



左が中村さん

震災当時から振り返ると、「支援の輪が広がっている」ということを強く感じています。天災による被害の現実を受け入れ、自活していくために過ごしていく中、医療や精神的サポート、食事から物資の配達にいたるまで、世界中・日本中から、多くの手厚い支援によって支えられていることを実感します。その支援は、神戸や新潟の災害での経験が蓄積されているように感じました。お互いに生きていこうという、支えあいの輪が広がっているように思います。

今回、津波にもまれて亡くなった方々は大勢います。その中でも何とか生きのびた人は、その現実を受け入れ、互いに支えあい気持ちを一つにしていく必要があります。そこで、以前私が自治体挨拶で引用した「足るを知る者は富む」と言う句を思い起こされました。様々な解釈はありますが、震災前の生活に比べると物資も何もかも十分とはいえません。しかし、このような状況を経験したことで、幸せを構築していくためには何が必要なのかを改めて考えさせられました。現在は、目の前にある瓦礫や様々な物の片付けに追われていますが、徐々に桜木町自治会としての活動や支援活動を再開していきたいと考えています。

紹介：AMDAの活動に彼女の前職を生かしての事務処理や現地案内ドライバーとして参加。震災により避難し、家族と共に避難所生活を送っている。（現地雇用復興支援プロジェクトに参加）

■三浦 由佳子さん 女性 大槌町在住

AMDAに参加することになったのは体育館に避難して数日たった時でした。仕事を一緒にしたことで「何か自分で出来る」という自信にもなりました。

印象に残っていることは、安渡地域を案内した時のことです。自分の知っている以前の町並みは無くなっていて、ぐるぐると道に迷ってしまったことです。AMDAのメンバーは、優しく見守ってくれました。震災中、支えてくれる人達がいるということを感じました。

いま、一日でも早く仮設住宅に入り、家族と安心して暮らせる日が早く来ることを願っています。

紹介：大念寺住職の妻。お寺にて、子どもたちとのコーラス、絵本の読み聞かせや女性グルーの集まりなど、地域へのボランティア活動を行っている。

■大萱生 都さん 女性  
大槌町在住 大念寺

街中にあるこのお寺は、津波や火事の被害から逃れ小さな避難所となりました。初めの頃、道路は封鎖され物資も何も届かなく、お寺に避難してきた人たちと共に瓦礫を乗り越えて様々なものを確保していました。徐々にそのような状況も変化し生活を考える時期に入りました。その団結が力となり乗り越えられた気がします。時間の経過と共に、年代や性別に合わせた物が必要となってきました。ハンドクリームや絵本、子どものおやつなど、そのときにほしいものをAMDAさんに提供していただき活用させてもらいました。

これからも笑顔がたくさん見られる機会をつくらうと思っています。

\*山形県に避難している宮城県南三陸町志津川の若い女性の方からお手紙が届きました。

私たちは南三陸町志津川で被災してから、体調を崩したり、精神的に不安定になったりと暗い日々を送っていました。そんな時に、AMDAのスタッフのみなさん、ボランティアに来てくれたたくさんの方々に元気と前向きに生きる強さをもらいました。今もまだ先の見えない日々が続いてはいますが、何とかなるだろうと考え、深く悩まずに、とにかく笑顔でいようと思っています。病気だけではなく、愚痴や悩みを聞いて心を軽くしてくれたり、子どもの相手をしてくれたりと本当に助かりました。ありがとうございました。

# AMDA はこれからも東日本大震災被災地支援を続けてまいります

引き続き皆様からのご支援をよろしくお願い申し上げます

## ◆医療支援として

### \* AMDA 被災地病院支援 3 年計画 / AMDA 鍼灸師・健康支援プログラム

岩手県大槌町では巡回鍼灸治療を継続しています。鍼灸の診療所の支援、明治国際医療大学との提携により、継続して鍼灸師の派遣を計画しています。また、鍼灸やマッサージ、運動器具などを設置した健康支援サポートセンターの開設支援を予定しています。

県立大槌病院、公立志津川病院に対し、今後3年間、医療器具の提供や医療スタッフの派遣を計画しています。夏季、冬季、春季に2名の医師を1週間ずつ計2週派遣し、医師が休みを取れるよう、また地元医師の開業や病院運営に必要な物資の提供なども行っていきます。

## ◆次世代育成として

### \* AMDA 東日本大震災スポーツ交流プログラム

8月上旬に、被災地の中学校3校からサッカーチームを岡山に招き、岡山県内の中学生との親善サッカー交流と広島研修を行います。秋には被災地高校生と岡山広島の高校生の交流会実施を計画しています。

### \* AMDA 東日本大震災国際奨学金

月額15,000円の奨学金を、将来医療職を目指す被災地の高校生に提供する（返済の必要なし）ものです。まずは被災地の高校3校（岩手県立大槌高等学校、岩手県立釜石高等学校、宮城県志津川高等学校）に在籍する高校生を対象として奨学金を支給します。6月1日現在、釜石高校の15人が奨学生として確定しました。今後対象校が増える予定です。

### \* 被災地栄養給食支援プログラム

大槌町給食センターへの支援をとおして、品数も量も少ない状態で再開している被災地小中学校の給食に一品を加え、町内全小中学生1,200人の健やかな成長を支援する計画です。

拝啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

このたびの東日本大震災津波にあたりましては、本県に医療救護活動チームを派遣いただき、救護所における医療提供や巡回診療にご尽力いただき、感謝申し上げます。

3月11日の被災から約1ヶ月半が経ち、被災地は徐々に落ち着きを取り戻しつつあるものの、いまだに多くの方々が避難所での生活を余儀なくされています。こうした方々が適切な医療を受けられるよう、地域医療機関を中心とした努力が日々続けられています。

皆様からいただいた温かいご助力を糧に、県民皆で力を合わせ、希望に向かって一歩ずつ復興に取り組んでいきますので、今後とも変わらぬご支援をよろしくお願い申し上げます。

敬具

平成23年5月1日

特定非営利活動法人AMDA理事長 様

岩手県知事 達 増 拓 也

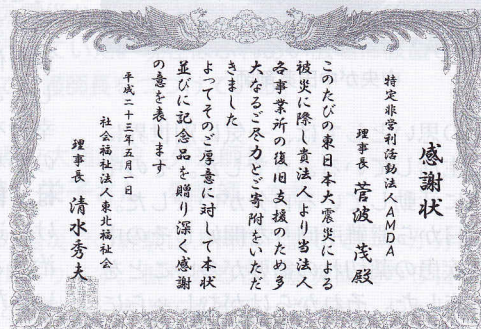
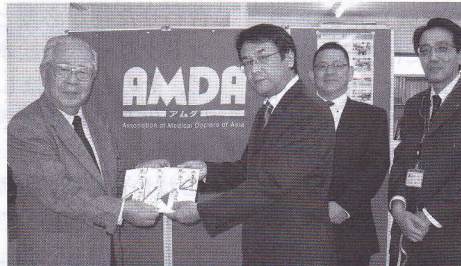


岩手県達増拓也知事からお礼状を（右上）、仙台のせんだんの杜「社会福祉法人東北福祉会」様から感謝状（右下）をいただきました。

クラブ株式会社様、コクヨ山陽四国販売様、天満屋岡山店様、個人の方も含めランドセル165個を贈呈をいただき大槌町内の小学生に渡しました。



全日信販株式会社様より社会貢献型クレジットカード「AJ(全日信販)AMDAカード」による2010年度下半期支援金を贈呈いただきました。



## 第3回「市民参加型人道支援外交円卓会議」 AMDA 東日本大震災活動報告

ご案内

被災地への派遣者と、岡山で後方支援をしてくださった各位が一堂に会し、それぞれの活動のご紹介と、今後に向けての対応について皆様ともに考える集いにしたいと考えています。どうぞご参加ください。参加無料。事前に参加申し込みが必要です。

◆日時 7月2日(土) 14時00分～16時00分

◆場所 岡山県国際交流センター8階 イベントホール

## \* AMDA 会員募集

	年会費	※医師・一般・学生・法人会員には、活動報告誌『AMDAジャーナル』を年4回、『AMDAダイジェスト』を年2回、賛助会員には、『AMDAダイジェスト』を年2回送付しています。
医師会員	15,000円	
一般会員	10,000円	
学生会員	7,500円	
法人会員	30,000円	
賛助会員	2,000円	

\* 入会希望の方は、同封の郵便振り込み用紙の裏面をご覧ください、必要事項を記入の上、ご入会の手続きをお取りください。